

第 100 回 全国健康保険協会千葉支部評議会の概要報告

開催日	平成 30 年 7 月 12 日 木曜日 14:30～16:00
開催場所	日本生命千葉ビル 4 階会議室
出席者	飯田評議員、小賀野評議員、鈴木評議員、高原評議員、出口評議員、松本評議員、山口評議員（五十音順）
議題	1. 平成 29 年度全国健康保険協会決算（見込み）について 2. 平成 29 年度全国健康保険協会の運営状況について
議事概要 （主な意見等）	

開会挨拶

* 本日は大変お忙しい中、千葉支部評議会にご出席いただきありがとうございます。今回は 100 回目の節目となる評議会でございますが、協会発足以来 10 年間、毎年最低でも 10 回の開催を続けて来た結果であり、発足当初の混乱期から準備金を使い果たすような大赤字と 3 年連続保険料率引上げの激動期、そして国庫補助率 16.4%の法定化後の小康状態期を通じ、協会運営に対する皆様からの貴重なご意見、アドバイスをいただけてきましたことに改めて感謝申し上げる次第でございます。

本日は、平成 29 年度協会けんぽの決算（見込み）と運営状況についての報告がメインでございます。1 年間を通しての協会全体と千葉支部の状況につきまして、皆様のご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議事概要

1. 平成 29 年度全国健康保険協会決算（見込み）について

■資料：平成 29 年度全国健康保険協会決算（見込み）について
平成 29 年度千葉支部の収支について

《主な意見・質問等》

◆平成 29 年度千葉支部の特別計上に係る経費の執行実績において“その他保健事業”と“広報・意見発信”の中で未実施の事業がいくつかあり、予算を執行できていないようだが、その理由は何か。《事業主代表》

→健康づくり事業の推進に関する食事・健康管理の講演会は、当初独自に開催する予定でしたが、実際は健康保険委員の研修会で開催したため、健康保険委員関係の予算より執行しています。また、メンタルヘルスに関しては、事業所ごとに求めるものが異なるため、健康宣言事業所向けに実施している出張セミナーに種類を追加し、事業所のニーズに合わせたセミナーを実施するようにしました。ただ、実際に出張セミナーを利用する事業所は想定してい

たよりも少なく、予算をあまり執行できていない状況です。今後、利用してもらえようアピールしていくことが課題となります。集団健診を利用した歯の健康相談の実施に関しては、歯科医師会との調整を含め取組むことができませんでした。

◆残った予算はどうなるのか。《被保険者代表》

⇒このまま持ち越さず不用となります。今年度分については改めて予算を計上しています。

◆健康保険勘定の貸借対照表の“貸倒引当金”とは具体的に何か。《被保険者代表》

⇒高額療養費や出産育児一時金の貸付、債権のうち回収不能と見込んだ金額を引当金として計上しているものを指します。

◆社会保険庁時代の債権で未回収等の“貸倒引当金”は、協会けんぽへ移るときに処理されているのか。《事業主代表》

⇒全額ではないが内容に応じて引当計上はされています。ただ、引き継いだ債権に関しては、回収する努力をしているところです。

◆紙媒体による広報で健康保険の事務手続き冊子を作成しているが、わかりやすく良い。どのくらい作成していて、どこに配布しているのか。《事業主代表》

⇒1万部作成し、健康保険委員を中心に配布しています。また、年に1度年金事務所と合同で実施している算定基礎講習事務説明会においても配布しています。

◆決算の推移における29年度（見込み）の準備金残高が2兆を超えているが、協会としてどう考えているのか。《事業主代表》

⇒確かに2兆3千億円と大きな金額であり、3.1か月分の準備金残高ではありますが、過去に3.9か月分の準備金残高を持っていながら短期間で単年度赤字が続き、準備金が枯渇したことがあります。当時は国であり制度改正等による対応ができましたが、協会となった今は以前のような対応は難しい状況であり、できるだけ平均保険料率10%を維持していく方針です。

協会けんぽ（医療分）の平成29年度決算（見込み）に基づき、賃金上昇率が「2020年度以降0.6%」として試算した場合でも、2023年には単年度赤字となり準備金を崩していかねばならない状況となります。保険給付費が賃金の上昇を上回る協会の赤字構造が続いている以上、2兆3千億円の準備金があったとしても協会けんぽの規模からして決して安心できる額ではないと認識しています。

◆国や総報酬割にした組合等は財政的に苦しい状況にある。将来に備えることは大切だが、協会けんぽだけ準備金残高が2兆円以上あるということを、運営委員会できちんと取上げる等して協会全体としてしっかりと認識してほしい。《事業主代表》

◆平均保険料率 10%を維持した場合の準備金残高と法定準備金に対する残高の状況を表したグラフは、今後社会が変化していくことも考慮して作成しているものか。予測の幅があるため、最悪な場合を考えなければならない。《学識経験者代表》

⇒経済成長、制度改正等の変化は予測しづらい部分もあるため、一定の前提を置いたうえでのごく粗い試算となります。

◆平成 29 年度千葉支部の収支で国庫補助率を除くとあるが、どういうことか。

《被保険者代表》

⇒支部別の収支を算出するうえでは、便宜上国庫補助を含めずに計算を行っているということです。

2. 平成 29 年度全国健康保険協会の運営状況について

■資料：平成 29 年度の全国健康保険協会の運営状況について

◆サービススタンダードやレセプト点検効果額等、前年度に比べると実績が下がっているが、職員数が足りないのではないか。標準人員ではあと 2 人減らすようだが、問題はないのか。

《事業主代表》

⇒サービススタンダードに関しては、振込までの日数は少なく余裕がある状態でした。しかし、千葉支部は全国的にも残業時間が多かったため、振込までの日数を全国平均に近づけることで残業時間の削減に寄与し、労働環境の改善につながっています。また、業務を標準化・効率化することで人員を減らし、企画総務部門へ人員をシフトした影響も考えられますが、支部内での人員配分を見直すというあくまで前向きな取組の結果と考えています。また、レセプト点検効果額に関しては、支払基金との相対効果もあるため人員による影響とは一概には言えません。ただ、前年よりは下がったもののいまだ全国上位にいる状況です。

◆加入者は今後も増え続ける可能性はあり、全国一の加入者伸び率であることを考慮すると、今現在全国平均より上を保っていても不安に感じる。《事業主代表》

⇒全国一の加入者伸び率である千葉支部は、適正な人員の確保として標準人員の見直しを直近のデータ等に基づき、本部へ要求して参ります。

特記事項

- ・第 100 回千葉支部評議会傍聴者 支部職員 1 名
- ・第 101 回千葉支部評議会開催予定 平成 30 年 9 月 21 日（金） 15：30～